

絆

安中市立松井田中学校 学校通信



令和6年11月6日発行 NO.27

文責：校長

人権学習強調月間が始まりました

松井田中学校では、10月30日(水)～11月29日(金)までを人権学習強調月間として、人権に対する意識の高揚や人権感覚を育て磨けるような活動に取り組んでいきます。具体的には、各学級の道徳の時間に人権に関わる授業を行ったり、人権標語、人権作文、人権ポスターを作成したりします。また、既にお知らせしてあるように、11月20日(水)には、パリパラリンピック銀メダリストである唐澤剣也選手(SUBARU所属)による人権講演会も予定されています。保護者の方もぜひご参加ください。

10月30日の人権集会では、次のような話をしました。人権学習強調月間中に、人権に対する意識が少しでも高まり、それが行動として現れるとよいなと思っています。

人権とは何でしょう？簡単に言うと「人間らしく生きる権利」で『人権』です。当たり前の権利のようですが、世の中には人権が守られないような「人権課題」がたくさんあります。障害のある人の人権、高齢者の人権、女性の人権、子供の人権、外国籍の人たちの人権、犯罪被害者の人の人権、LGBT(性的少数者)の人権、いじめの問題、インターネット上の誹謗中傷、同和問題などです。安中市では毎年テーマを変えて、この人権課題について考えています。今年度、安中市のテーマは「障害のある人の人権」です。

先日、安中市が主催する人権講演会に行く機会がありました。講演して下さったのは、花岡伸和さんです。花岡さんは、高校3年生、17歳の時にバイク事故で脊髄を損傷、ヘソから下が麻痺し、車椅子での生活が始まりました。その後、車椅子マラソンで2度のパラリンピックに出場しました。現在もアスリート活動を続けながら、コーチとして活躍されているということでした。花岡さんは事故で下半身が動かなくなった時、深い絶望に陥ったそうです。しかし、花岡さんを救った言葉がありました。それは、パラリンピックの父と言われるルートヴィヒ・グッドマン博士の「失ったものを数えるな 残された機能を最大限に活かせ」という言葉でした。確かに花岡さんは事故で下半身は動かなくなりましたが、上半身は動きます。その動く上半身を最大限に活かすために車椅子マラソンに取り組んだということでした。

失ったものを数えるな
残された機能を
最大限に活かせ

パラリンピックの父
ルートヴィヒ・グッドマン博士



障害のあるなしに関わらず、私たちは自分のダメなところばかりを気にすることが多いのではないのでしょうか。そうではなく、自分のよいところを最大限に活かすことが大切なのではないのでしょうか。また、自分のことだけでなく、他人を見るときもその人の悪いところばかり見てしまう傾向があります。悪いところだけでなく、他人のよいところを積極的に認めていくことも大切ではないかとも思いました。そして、自分や他人のよいところを認めていくことが、人権尊重の一番の基本なのだとも思います。

今回の人権学習強調月間では、ぜひ、人のよさを進んで見つけ、自分にできることを実践してみましょう。そうすれば、今回見た動画のように、「たった一人の行動がみんなを動かす」ということになり、松井田中学校でも「思いやりの連鎖」が起こるのではないのでしょうか。そんな松井田中学校になってくれることを期待しています。

人権学習強調月間中の私からの宿題です。1つめは「人権学習強調月間中に見つけた友達のよい行動を教えてください。」ということ。2つめは、「人権学習強調月間中に行った自分のよい行動を教えてください。」ということです。なるべく具体的に書いていてくれるとよいと思います。11月中に送ってください。よろしくお願いします。



安中ヘルメットプロジェクト

11月5日(火)、安中ヘルメットプロジェクトの方が9名来校し、体育館で3年生にヘルメットを寄贈してくださいました。

安中ヘルメットプロジェクトとは、安中のロゴの入ったTシャツを販売し、その収益をヘルメットの購入に充て、安中市の小・中学校にヘルメットを寄贈するというプロジェクトです。安中の子どもたちにヘルメットを届けることで、防災意識を高めていくことをねらいとしています。市内の小・中学校全てにヘルメットの寄贈が終わり、昨年度から中学校への寄贈が始まっています。ヘルメットを実際に使うような災害はない方がよいですが、もしもの時に活用させていただけたらと思います。ありがとうございました。



中学生英語スピーチコンテストがありました

11月3日(日)に、第30回中学生英語スピーチコンテスト(共愛学園杯)が行われました。本校からは3年A組の〇〇〇〇さんが代表として参加しました。〇〇〇〇さんのスピーチのテーマは、「Power of Dialect」です。このスピーチコンテストは、全て英語で行われ、制限時間は3分、制限時間をオーバーすると減点になります。また、壇上への原稿持ち込みは可ですが、原稿を見た場合は減点の対象となります。大変厳しい基準でのコンテストでしたが、緊張感漂う中、大変素晴らしいスピーチを披露していました。



群馬県理科研究発表会がありました

11月4日(月)に、群馬大学で、第72回群馬県理科研究発表会(中学生の部)が行われました。本校から3年C組の〇〇〇〇さんが参加しました。〇〇〇〇さんの研究テーマは、「地球の質量を求める～単振り子を用いて地球の質量を測定することができるのか～」です。廃校になった小学校の譲渡会で貰った振り子をきっかけに、振り子が揺れる時間を測って地球の質量を求めることを知り、研究を行いました。この研究は、中1の時に自分で歩いた歩数と2点間の緯度差から地球の大きさを調べる研究もきっかけになっているということでした。複雑な計算式から地球の質量を求め、最終的に実際の値と近い数値になり、単振り子から地球の質量を求めることができるという結論に達しました。この研究を通して、何度も実験を繰り返した結果が偉大な発見や発明につながっていることに感銘を受けると同時に、探究心の大切さに気づいたそうです。

